



厚生労働記者会・厚生日比谷クラブ
文部科学記者会・科学記者会 同時発表

令和3年1月29日
広 報 室

AMED 採択課題「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対する治療薬開発のための実用的な予後予測・治療スコアの開発と社会実装」に取り組みます。

横浜市立大学では、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の令和2年度新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対する治療薬開発推進のための技術開発等」として、「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対する治療薬開発のための実用的な予後予測・治療スコアの開発と社会実装（研究代表者：横浜市立大学学術院医学群 救急医学 主任教授 竹内一郎）」を医療法人沖縄徳洲会湘南鎌倉総合病院（神奈川県鎌倉市）、ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社（東京都港区）、東レ株式会社（東京都中央区）との産学連携で実施します。

2020年5月に、本学救急医学 竹内一郎教授、西井基継講師を中心とする研究グループは、AMED 新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進事業（課題名：COVID-19患者層別化による医療資源の最適分配とアウトカム向上）に採択され、COVID-19の患者さんの重症化を予測する“層別化”の研究に取り組んでまいりました。その結果、治療薬開発の際に重要となる、重症化の予後予測のための複数のバイオマーカーを発見いたしました（学術論文投稿中）。今回採択された研究課題は、先の研究で得られた知見を社会に還元するため、本学学術院医学群 臨床統計学の山本紘司准教授や、湘南鎌倉総合病院、ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社、東レ株式会社と共同で、①臨床情報、予後予測のバイオマーカーを組み込んだ、予後予測・治療スコアリングシステムの開発、②スコアリングシステムを用いた、実用的かつ“目に見える”定量的アプリケーションの開発と有用性の検証を行います。本事業によって、予後予測・治療スコアを組み込んだアプリケーションシステムの社会実装が実現すれば、医療資源の適切な分配に大きく寄与することが期待されます。

現在、国内感染拡大の第3波で COVID-19 の患者さんが急増し、まさに限られた医療資源が枯渇しかねない状況にあります。本事業を通じて、科学的根拠に基づいた患者さんの“層別化”を行うためのツールを開発し、医療崩壊を防ぐために、社会への実装化を早急に進めることを目指します。

研究課題

事業名 新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業

課題名 「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対する治療薬開発のための実用的な予後予測・治療スコアの開発と社会実装」

研究体制

代表機関 公立大学法人横浜市立大学

研究代表者 横浜市立大学学術院医学群 救急医学 主任教授 竹内一郎

分担研究機関 医療法人沖縄徳洲会湘南鎌倉総合病院、ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社

協力企業 東レ株式会社

実施予定期間

令和3年1月29日～令和4年3月31日

**SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS** 横浜市立大学は、
様々な取り組みを
通じてSDGsの達
成を目指します。

